

Vol. 45

2023.6.1 発行



エネルギーソリューション事業部 開発技術部

なんど よしと
納戸 芳人

2012年に株式会社中央物産へ入社した納戸芳人さん。新しく設立されたエネルギーソリューション事業部と開発技術部の業務を兼務し、工機課に必要な部品の発注書の作成や、データ入力などの事務をメインに担当しています。入社から10年以上が経ち、さらなる活躍が期待されている納戸さん。入社のかっかけや意識している点、今後の目標などを聞きました。

中央物産へ入社したきっかけを教えてください。

学生時代は都会で就職したいと考えていましたが、都市の人混みに酔ってしまうとわかり、地元の中津川市で働くのが一番だと思うようになりました。しかも、中津川市はものづくりが盛んです。製造業界で働こうと決め、市が開催するセミナーに参加し、製造業の研修で1年ほど経験を積みました。

そんな折、知り合いから紹介してもらったのが中央物産でした。中央物産には昔なじみの人が多く働いており、通勤も便利なうえにアットホームな社風だと知っていました。ここで働きたいと思い、新たな一歩を踏み出したという経緯です。

仕事で意識しているのは、どういう点ですか。

可能な限り、ミスをゼロにすることでしょうか。私の担当は、主にお金に関わる業務です。ちょっとしたミスが、会社の損失につながってしまうかもしれません。間違いが発生しないようチェックを徹底しています。

もう一つ、書類を作成するにあたって入念に検討するのが、本当にその部品や費用が必要かどうかです。可能な限り費用を抑える方針ではありますが、必要なものであればきちんと購入するように

しています。節約するだけでなく、必要であればためらわずに購入することが大事です。ひとつひとつの自分の判断が、会社を動かしていくという責任感を感じています。

今までどのような努力をしてきましたか。

やはり、勉強ですね。というのも、私は工業高校に通学しておらず、入社当初は製造業界ならではの専門用語がわかりませんでした。私の仕事は会社の設備作りを担うため、ものづくりにおける中核です。責任の重い仕事も多くありました。上司を納得させる書類を作れず、何回もやり直す日々。周りの人に迷惑をかけてしまったこともあります。上司からも厳しく注意を受け、くじけそうになったときもありました。

事務職に従事しているとはいえ、会社で使用されている設備の仕様を知らなくていいはずがありません。なぜその部品が必要なのか、どのようにして設備は組み立てられているのか……それらがわからなければ、納得していただける書類を作成するのは不可能です。そこで、各現場に直接足を運んで先輩たちに何度も質問をして、ひとつひとつ知識を習得していきました。わからないままにせず、上司や班長にも臆することなく質問攻めをする若手時代でしたね。そこから仕事の要領をつかんでいき、先輩たちからも少しずつ認められるようになったと実感できたときには嬉しく思いました。そして、自分の仕事営業の手に渡り、契約につながり、取引先との縁をつくるきっかけになっていく流れを感じる時、なによりやりがいを感じます。

最後に、今後の目標をお聞かせください。

中央物産で働きはじめて早10年。その間、社会

は大きく変化しました。近年ではAI技術も著しく発達してきて、この先事務の仕事はどんどん減っていくのではないかと不安もあります。しかし、そうした状況でも人間にしかできないこともあるのではないのでしょうか。周りを見ながら、自分にできることを一つでも多く見つけ、着実に取り組めるようにしていきたいと思っています。

また、これからはますます後輩たちも増えていくでしょう。これまで私が先輩方にしてもらったように、今度は後輩たちにさまざまな知識やノウハウを教える番だと思っています。これからも自分の仕事に自信と誇りを持って、ポジティブに取り組んでいけるように頑張ります。

前向きな姿勢で、一步一步着実に歩みを進めてきた納戸さん。誰よりも強いプロ意識を持って、今後も会社のために力を尽くしていくでしょう。



休日はどのようにリフレッシュしていますか。

ガンダムをはじめとしたプラモデルの制作を楽しんでいます。かれこれ20年以上続けている趣味です。料理も休日の楽しみの一つなのでカレーをつくる際には、スパイスから厳選して調理しています。



共生社会の実現に向けて —障がい者雇用 中物ファームの取り組み—

※共生社会とは…さまざまな人々が、すべて分け隔てなくいきいきと活躍できる社会

当社での障がい者雇用の取り組みをご紹介します。
新たに開始した農園事業「中物ファーム」とは一体どのようなものなのでしょうか？



人事総務部 執行役員 人事総務部長 **林 達也**さん

中物ファームとは？

人数：3名（20代女性2名、10代男性1名）
1名（スタッフ3名を管理する40代女性1名）
雇用形態：パート
部署：人事総務部（中物ファーム）
仕事内容：葉物野菜の栽培
使用機械や栽培区画の清掃
栽培区画を中央物産としての色を出すための装飾など。



中物ファーム

中物ファームを始めた背景

障がい者雇用の義務を果たし、共生社会を目指すために

2023年4月から中物ファームという障がい者の方による農園事業を開始しています。
当社では障がい者雇用枠として6名の採用が義務付けられていますが、安定的に職場に定着してもらうためには様々な課題があり、これまで1名の採用に留まってきました。雇用枠が達していないことで、納付金を納めている状況であり、この状態は「共生社会の実現」を目指している以上、その務めを果たすことができているともいえます。そこで、開始することに決めたのが農園事業でした。

一人ひとりにあったコミュニケーションで働きやすい環境へ

2023年4月に農園で3名のスタッフ、1名の農場長の入社式を行いました。皆さん明るい性格の方です。コミュニケーションに関しては、人によって障がいの状態が異なるため、その人に合わせた指示を出すようにしています。例えば、10代男性の方は自身で考えるということが不得意なため、詳細に指示を出すようにするなどです。

水耕栽培に取り組み、健康経営に役立てる

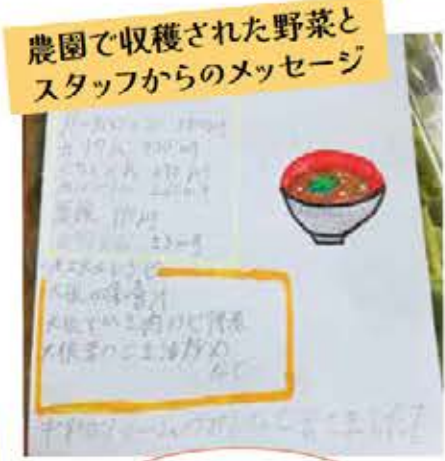
愛知県中川区に「ソーシャルファームわーくはびねす農園Plus」という、障がい者の方が働く水耕栽培の農園があり、そこで働いているスタッフ3名と農場長1名を当社で雇用しています。週に一度、課長の堀川さんが現地に訪問。その3名の方は、農園からではなく、我々の考えを農場長に伝え、農場長の指示により野菜を栽培しています。今後、栽培と収穫した野菜に関しては、社員の皆さんへの配布を考えているところです。また、SDGsとして、今後持続的に会社が発展していくためには、障がい者雇用に限らず多様な人材が活躍できる職場環境や風土を改善していくことが大切。さらには収穫された野菜を社員の皆さんに食べていただくことで、健康経営にも一役かかっています。そういった観点からも有効な取り組みと言えるでしょう。



葉大根のお味噌汁



コマツナのピザ



農園で収穫された野菜とスタッフからのメッセージ

どれも新鮮！
みなさんにも食べて
いただきたいものばかり。
お楽しみに！

障がい者雇用のもう一つの取り組み —障害者就労支援事業所からの正社員登用—

正社員として中央物産の業務に従事してもらうという理想を目指して

当社では、化成品工場内に障がい者就労支援事業所を取り入れ、共生社会の実現に向けた取り組みも行っています。そこで働く障がい者の方へは障がい者就労支援事業所から給与が支払われるのですが、仕事内容としては当社の業務を行ってもらっているという状況です。ここで働く障がい者の方で、当社の仕事を覚えて勤務環境にも慣れることができた方を、障がい者就労支援事業所から当社の正社員へとシフトチェンジして採用するという取り組みを行っています。この方法で、2023年4月から1名の方が正社員として入社しました。

<入社した方>
ケミカルプロダクツ 事業本部 **原 隆史**さん

皆さんのメッセージ

共生社会を目指す姿勢への理解と、協力を願って

我々は企業として、障がい者の方たちが働く場を提供するという義務があります。これらも、障がいのあるなしに関わらず、誰もが活躍できる場を目指し、共生社会の実現に向けて会社として取り組んでいく所存です。今後は、新入社員の新人研修の一部として中物ファームを見学してもらい、中央物産としての取り組みを肌で感じてもらうなど、社員の皆さんに知っていただく機会を作っていこうと考えているところです。一緒に働く皆さんにも、その認識と理解を深めていただくと幸いです。



農場長とスタッフの皆さん



共生社会と一口に言っても、いろんな側面での貢献ができそうです。
中央物産でできることを、ひとつひとつ取り組んでいきましょう！